

# 京都腎臓医会 副会長

京都大学 腎臓内科 講師 山本伸也先生



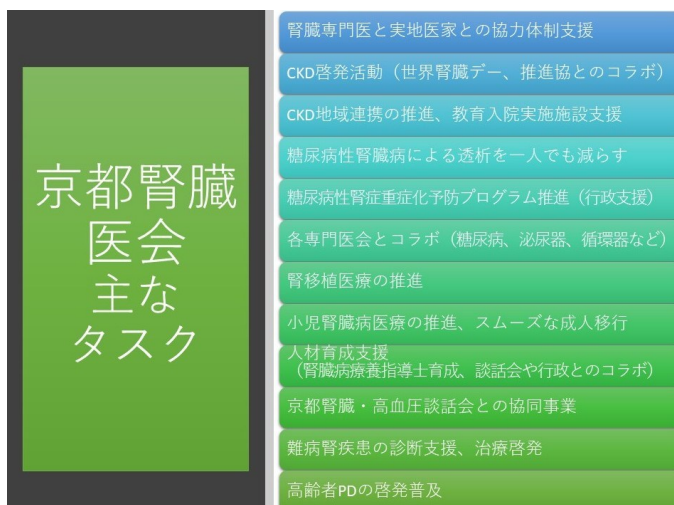
この度、京都腎臓医会の副会長を拝命いたしました京都大学腎臓内科の山本伸也と申します。副会長の大役にあたり、会員の先生方の診療のお役に立てるよう努力してまいります。

私は、これまで大津赤十字病院、医学研究所北野病院で勤務し、症例ごとに丁寧に突き詰めて診療に当たる大切さを学びました。京都大学では、柳田先生のご指導のもと生体腎ATPイメージングに取り組み、未解明領域の開拓や新規疾患概念の構築を目標に研究を進めてまいりました。日常臨床では、病理組織の詳細な解析や遺伝子検査を用いて、希少疾患の確実な診断を心がけております。京都大学ではOnconeurologyユニットでも活動し、がん拠点病院20施設からなるOnconeurologyコンソーシアムでは事務局長として、本領域の研究を推進しております。全身疾患に伴う腎障害にも興味を持ち、公的活動の一環としてANCA関連血管炎診療ガイドライン2026システムティックレビュー委員を務めました。今回、私が副会長のご指名をいただいたのは、これらの経験を活かし、腎疾患診療、病診連携、若手医師の育成などを促進することを期待されてのことと理解しております。

現在、世界でのCKD患者数は7億人を超え、CKDによる死亡者は年間150万人を超え、公衆衛生課題になっておりますが、CKDに対する新規治療薬の開発に伴い、CKD治療のパラダイムシフトを迎えています。さらに、腎障害の分子機序に関する基礎研究の進歩や大規模観察研究から疾患概念の細分化や深化が進んでいるため、常に知識のアップデートが急務です。

八田会長のご尽力のもと京都腎臓医会では、多数のワーキンググループ（WG）が立ち上がり、WGを中心に活発な学術・教育活動を行っております。私自身もたくさん学ばせ頂くと同時に学術活動や教育活動を通じて、診療の質の向上に寄与していきたいと考えています。また腎臓病診療は、かかりつけ医、専門医、他科医師、医療スタッフとの連携が不可欠と考えており、本会を通じて地域医療の連携をさらに深化させ、教育活動や情報発信を通じて、腎臓病診療の質の向上に寄与していきたいと考えています。

引き続き、会員の皆様とともに京都腎臓医会の発展に尽力してまいります。何卒宜しくお願い申し上げます。



## HAPPY NEW YEAR 2026

Achieving  
Sustainable Development Goals

